

久保勇記 1)、井上 健 1)、福島裕子 1)、小林庸次 1, 2)
大阪市立総合医療センター 病理部 1)、南大阪病院 病理診断科 2)

【症例】 30 歳代、男性

【主訴】 呼吸困難

【現病歴】

1 年前から歩行時に呼吸困難を訴え、6 ヶ月前から仰臥位で左背部痛を訴えるようになった。近医にて左気胸疑いと診断され、当院に入院となった。術中所見では左胸腔の大部分を占拠する弾性軟の巨大ブラを認め、下葉 S8 に連続していた。ブラを周辺肺を含めて切除した。

【画像所見】

左胸郭内を占拠する気腫性病変を認め、肺野は圧排されており、無気肺の状態であった。

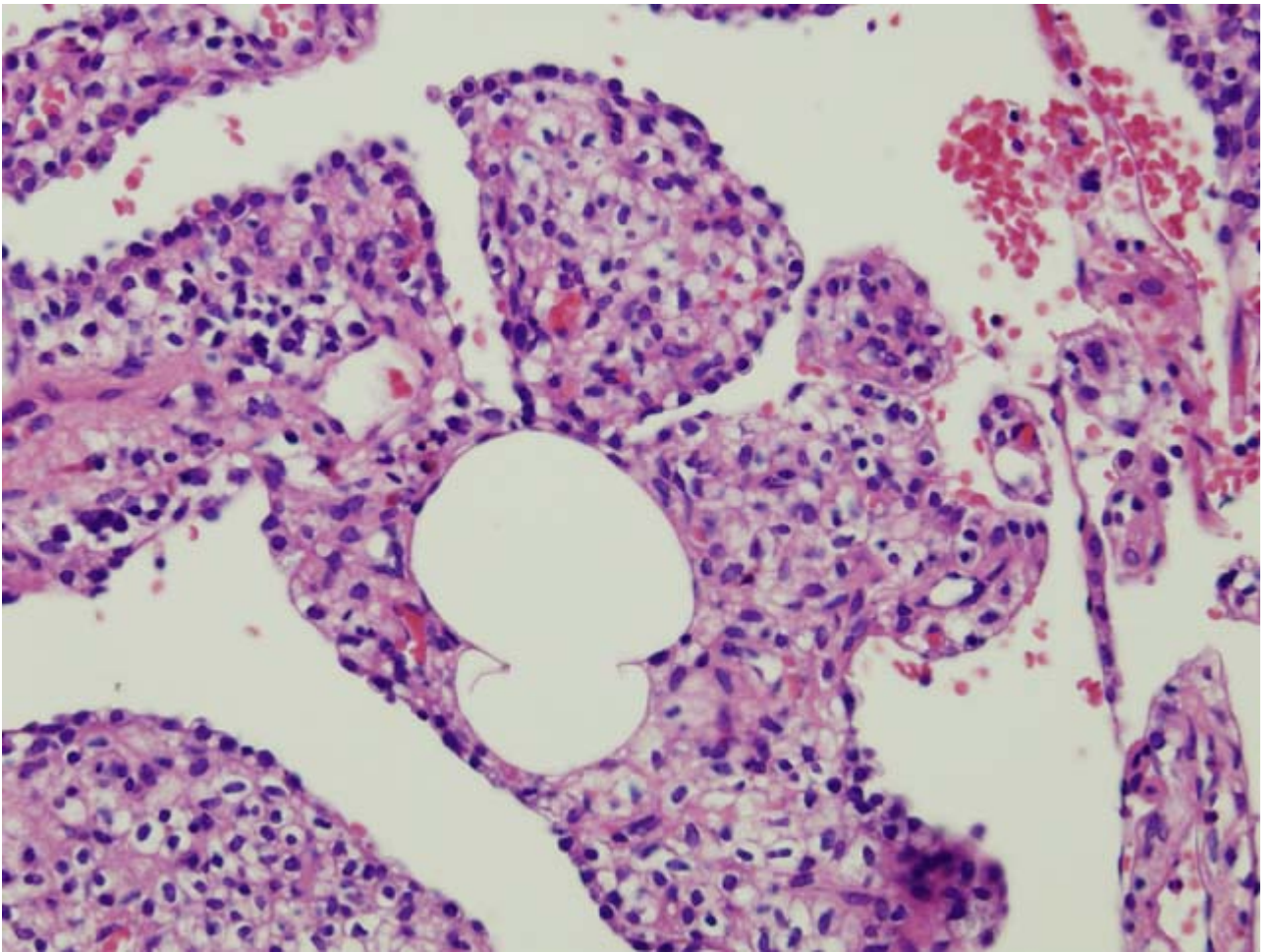
【肉眼所見】

ブラ内面の大部分は平滑であったが、肺実質付着部付近の内面には胎盤実質に類似した構造物が認められた。

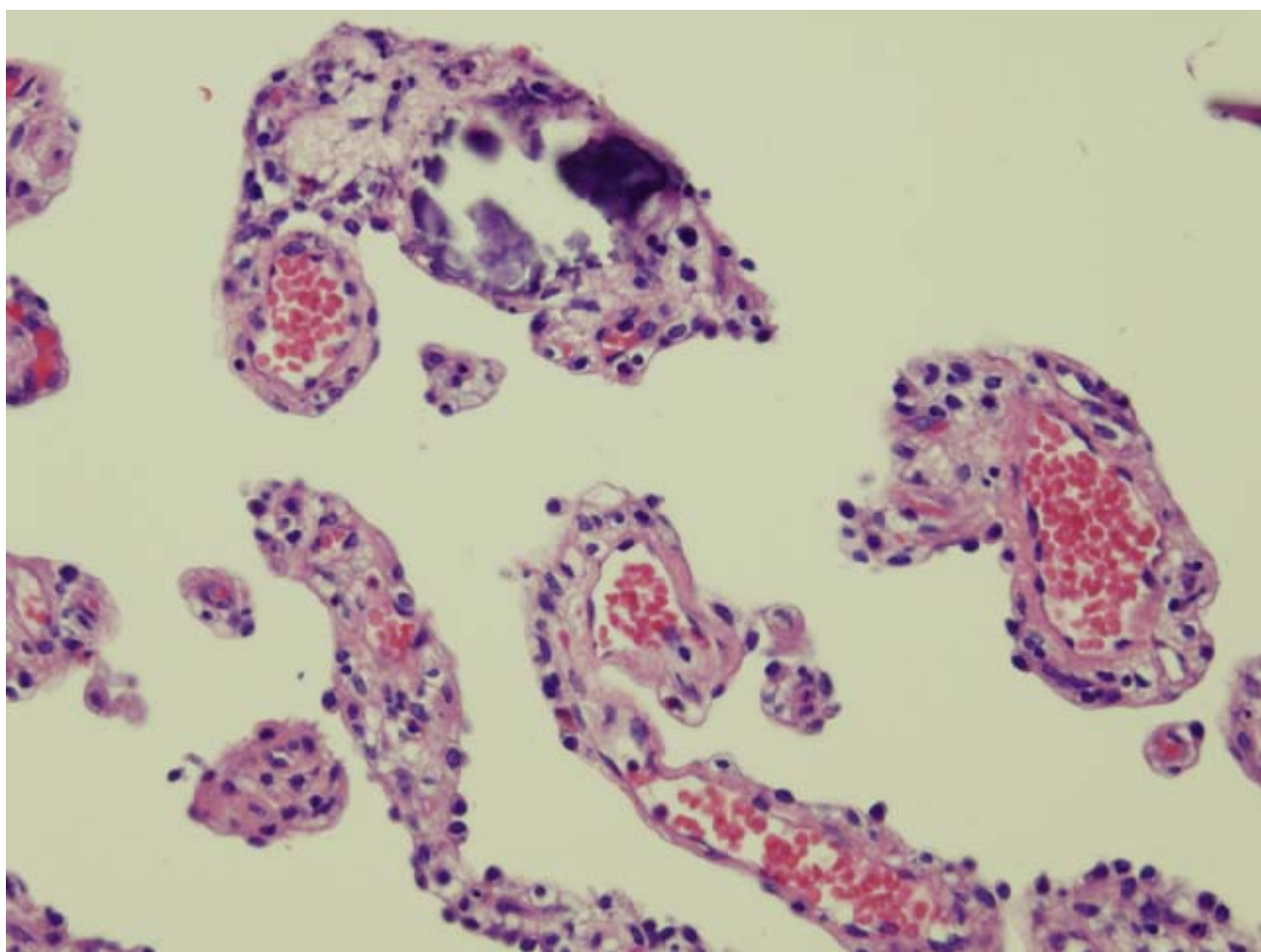
【組織学的所見】

胎盤実質に類似した構造物は浮腫状の間質を有する絨毛様組織であり、内部には淡明な細胞質をもつ細胞が増加し、脈管やリンパ濾胞、脂肪組織を伴っていた。また一部には石灰化を伴っていた。表層は肺胞上皮類似の単層の立方状細胞に被われていた。

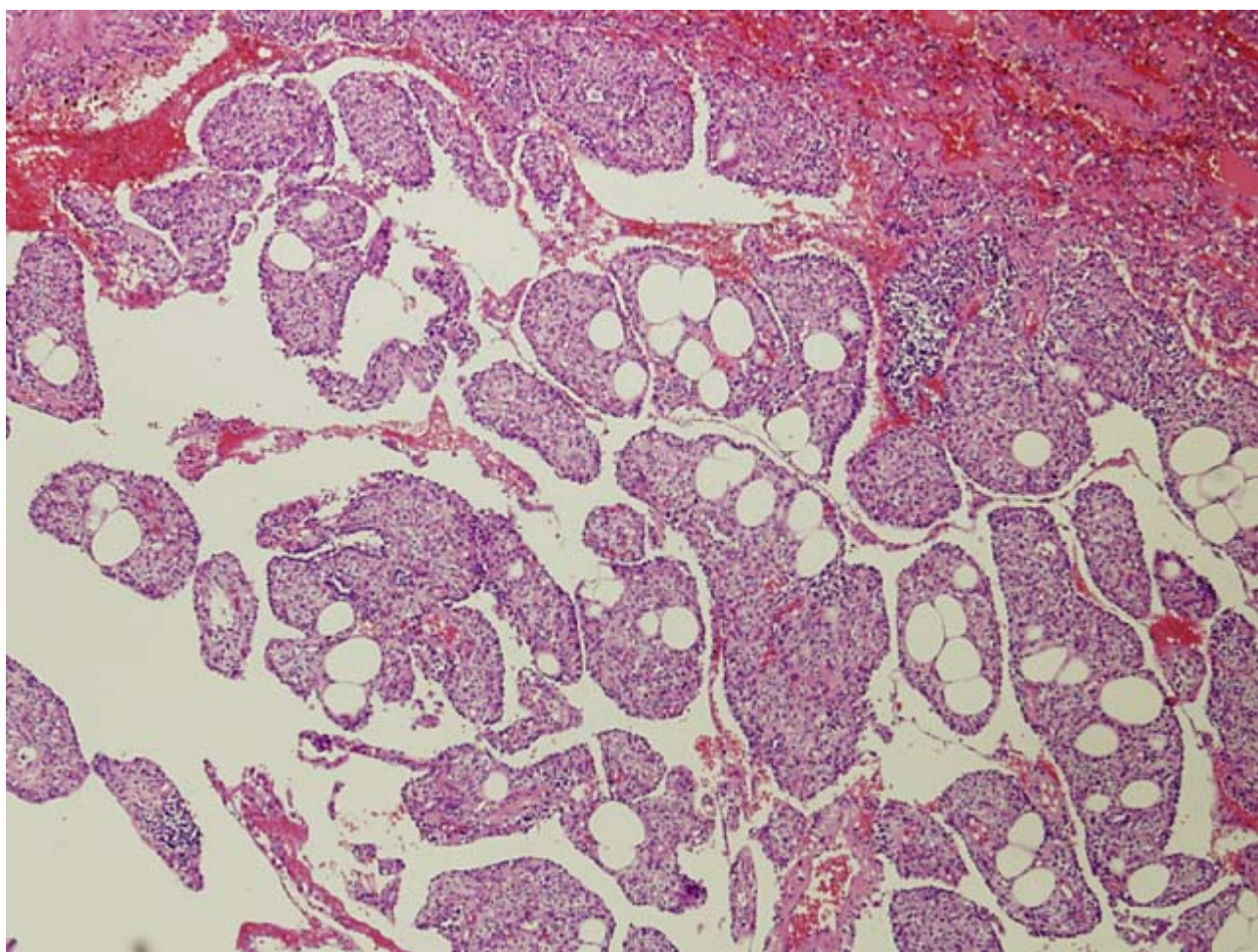
【問題点】 病理組織診断



715_強拡_#1



715_強拈_#2



715_弱拡_#1



715_肉眼像